

2007年度伝音セミナー 日本の希少音楽資源にふれる SP盤に
きく幻の音 第2回

江戸の浄瑠璃を聞く 古曲保存会その2

2007年6月7日(木)14~16時 伝音センター
担当:竹内有一(伝音センター准教授)
協力:亀村正章(伝音センター委託研究員)

今回の主旨

1. 日本における学究的音源制作の嚆矢である、古曲保存会のレコード制作の状況を、昨年の担当回に引き続き、整理し振り返る。
2. 昨年きいた、上方の一中・豊後系浄瑠璃に続き、江戸の浄瑠璃(豊後三流のうち、常磐津節)をきく。
3. 演奏者や演奏された時代・場所等の異なる別の音源をいくつか参照する。それにより、あらすじ・舞踊・演出等と音楽との関係を自由に考える。

(参考) ホームページ広報文

- 去年の「その1」に引き続き、町田佳声の監修による浄瑠璃音源と解説資料を提供します。「その1」で聴いた一中節・宮古路節の系統をひく、江戸の豊後三流を聴きます。音質はきわめて悪いのでご了承ください。

古曲保存会によるレコード制作

- 「江戸時代音楽」第1期 町田博三監修
1920年
- 「江戸時代音楽」第2期 町田博三監修
1921年
- 「平安朝音楽」 田邊尚雄監修 1921年

「江戸時代音楽」第1期 町田博三監修

- 1920(大正9)年発売、32曲、80数枚。
- 帝国蓄音機にて委託製作。
- 第1回頒布は同年3月。
- すべて月賦でのセット販売。
- 当初は、毎月2枚発売の予定だったが、好評につき、同年8月までに24枚作成。
- 頒布枚数・価格: 毎月2枚4円(丙種)を基本とし、甲種(4枚7円)、乙種(3枚6円)を追加した。
- 伝音センター田邊文庫に、34枚所蔵。

「江戸時代音楽」第2期 町田博三監修

- 1921年発売。35曲、枚数未詳。
- 帝国蓄音機にて委託製作。
- 月賦による定期頒布のほか、自由購入も可能とした。
- 解説書には35曲掲載されるが、完結しなかったか？
 - 同年11月に古曲保存会解散？、翌年に関東大震災。
- 伝音センターに所蔵なし。

「平安朝音楽」レコード 田邊尚雄監修

- 1921年発売。
- 帝国蓄音機にて委託製作。
- 解説書は、『雅楽通解』と題して、同年、古曲保存会蔵版(私家版)として刊行。

(参考) 「古曲保存会改正規約」

- 1920(大正9)年3月、会員に配布。
- 「会員130余人」と記す。
- 発売枚数を追加し、会員区分を設けたために、規約を改正したか。
 - 甲(毎月4枚7円)35名、乙(毎月3枚6円)30名、丙(毎月2枚4円)25名。
 - 甲・乙は、当初の予定にはなかったもの。
- 出典: 林喜代弘 1975 「邦楽のレコード化」『季刊邦楽』第4号

(補足) 古曲保存会レコードの品質に関する監修者の自省

- 「工場の鍍金設備に不完全な所があつて」
〔古曲保存会(町田) 1921.7〕
- 「例年になく非常に暑気強く、為めに鍍金の際に薬品が分解をして蝋及び原盤の面を腐食した」
- 「吹込喇叭から遠ざけ過ぎた失策」
- 「苦痛の為めに一同少しく吹込を急いだ」
- 「時間を長く入れる為めに(中略)特に溝を非常に狭くしてある」
以上〔田邊 1921.1カ〕

本日聴取する音源

- 古曲保存会レコード「江戸時代音楽」

- 1 常磐津節「蜘蛛糸梓弦」より
1765年江戸市村座初演
- 2 常磐津節「両顔月姿絵」より
1798年江戸森田座初演

常磐津節「蜘蛛糸梓弦」 1

- 歌舞伎舞踊曲。
- 1765(明和2)年、江戸市村座初演。
- 初代常磐津文字太夫による劇場初演曲としては、数少ない伝承曲。
- 能「土蜘蛛」に拠る近世の音楽・演劇作品の代表作の一つ。
- 土蜘蛛の精が、源頼光と四天王の命を狙うために、切禿・奥州座頭などに姿を変えてあらわれる。

常磐津節「蜘蛛糸梓弦」 2

1. 江戸三座や上方歌舞伎で、頻繁に類似の歌舞伎舞踊曲が上演される。長唄・富本の作も。
2. 現在の歌舞伎興行では、1937(天保8)年江戸中村座上演時の「来宵蜘蛛線」の名題を用いることが多い。
3. 現行の歌舞伎台本は、上方の市川右団次が、1893(明治26)年、東京春木座で「蔦糸蜘蛛振舞」として上演したものを基本とする。(山崎泉氏)
4. 東京では1959年に中村歌右衛門が約40年ぶりに復活上演。1974年市川猿之助、翌年中村扇雀(現・坂田藤十郎)など。
5. 常磐津では、素浄瑠璃として原曲「蜘蛛糸梓弦」を伝承する。歌舞伎興行では原曲を適宜補訂して使う。長唄と掛合で演奏することも。

歌詞 A

●「今に伝えて神国の ~ 朝の出がけに小室節」

- 土蜘蛛の精が变化した切禿が、馬貝などの所作をみせる一場面。
- 古曲保存会レコード 197番
- 演奏 浄瑠璃：常磐津志妻太夫、三味線：常磐津文字妻、囃子：梅屋勘兵衛社中
- 1920年6月録音

歌詞 B

- 「さて鉄門に ~ 申すばかりはなかりけり」
 - 奥州座頭が、仙台浄瑠璃を聞かせる場面。漢朝を創立した高祖(劉邦)の臣、樊噲の故事を面白おかしく表現。
 - 古曲保存会レコード 200番
 - 演奏 浄瑠璃:常磐津志妻太夫、三味線:常磐津文字妻、囃子:梅屋勘兵衛社中
 - 1920年6月録音

歌詞 C

- 「主君の帰館を ~ 消えて姿はなかりけり」
 - Bの前後を含めた部分録音。
 - 原盤：発売年未詳、米コロムビア
 - 演奏 浄瑠璃：常磐津林中ほか
 - 録音：1900-5年頃力
 - 所収：CD「常磐津林中」2006、コロムビア、COCJ-33690

常磐津節「両顔月姿絵」 1

- 歌舞伎舞踊曲
- 1798(寛政10)年、江戸森田座初演。
 - 正本(稽古本)は、「常磐津政太夫直伝」
 - 拙稿「両顔月姿絵」稽古本の初刊本」1999。
- 常磐津によるいくつかの先行作の改訂曲(決定版となる)。
- 吉田家の重宝 鯉魚の一軸を取り戻す芝居の結末部分(大切浄瑠璃)。

常磐津節「両顔月姿絵」 2

- 芝居全体の内容

- 吉田家の松若、その許嫁の野分姫、その恋人の町娘お組。この三角関係を軸として、破戒僧の法界坊(主人公)の横恋慕や盗みを写実に描く喜劇。

- 大切浄瑠璃(本曲)の内容

- 芝居の主人公の法界坊が死後、その靈魂が、野分姫の靈魂と合体し、お組の姿であられる。松若・お組を襲うが、仏力で調伏されるまで。
(二人のお組 = 双面の趣向)

現行の歌舞伎興行例 1 (ビデオにて)

1. 大切の幕開き
2. お組と松若の出 「恋には身をもやつせと～
(歌詞334頁下段2行目～)
3. セリフ「南無阿弥陀仏 ～」で暗転
(歌詞335頁上段7行目～)
4. 暗転にて、竹本「白浪の雲かあらぬか ～ 法界坊」
(同11行目～)
5. 野分姫亡魂の登場。原曲にはない部分「波枕かわしもやらぬ～ 閨の内」(弘化4年作)。
6. ドロドロにて、亡魂がお組に変身(法界坊の亡魂)。
7. 亡魂の踊り「わしが在所は ～」(13行目)
8. 竹本「うつらうつらと ～」(17行目)

歌詞 A

● 「白浪の雲かあらぬか ~ 姫御前の身で棲 からげ」

- 原盤：発売年未詳、米コロムビア
- 演奏 浄瑠璃：常磐津林中 ほか
- 録音：1900-5年頃カ
- 所収：C D「常磐津林中」2006、コロムビア、COCJ-33690

歌詞 B-1

- 「しのぶのみだれ限りなき ~
 - 古曲保存会レコード 202番
 - 演奏 浄瑠璃：常磐津志妻太夫、三味線：常磐津文字妻、囃子：梅屋勘兵衛社中
 - 1920年6月録音

現行の歌舞伎興行例 2 (ビデオにて)

1. セリフ 二人のお組が並んで。
2. 「尾花招けば ~」(B 2。5行目)
 1. 法界坊亡魂(ニセのお組)の踊り。
 2. はやり歌を引用したとされるが原拠未詳。
 3. 「人をしのぶの草隠れ」(8行目)で幽霊の振り。

歌詞 B-2

- セリフ「はづかしながら ~
- 「尾花招けば ~
 - 古曲保存会レコード 203番
 - 演奏 浄瑠璃：常磐津志妻太夫、三味線：常磐津文字妻、囃子：梅屋勘兵衛社中
 - 1920年6月録音

現行の歌舞伎興行例 3 (ビデオにて)

1. お組と松若の踊り。しっとりとしたクドキ。
2. 「過にし梅の花見月 ~」
(B 2・16行目、B 3)

歌詞 B-3

- 「ふっと見合わす顔と顔 ~
 - 古曲保存会レコード 204番
 - 演奏 浄瑠璃：常磐津志妻太夫、三味線：常磐津文字妻、囃子：梅屋勘兵衛社中
 - 1920年6月録音

現行の歌舞伎興行例 4 (ビデオにて)

1. 法界坊の亡魂が正体をあらわす。
2. 竹本「恨めしの心や ~ (B4)
3. 常磐津「刃にかかりし ~

歌詞 B-4

- 「松若様」「お組殿」「恨めしの ~
 - 古曲保存会レコード 205番
 - 演奏 浄瑠璃：常磐津志妻太夫、三味線：常磐津文字妻、囃子：梅屋勘兵衛社中
 - 1920年6月録音